
赤い白

財前太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤い白

【Nコード】

N2817A

【作者名】

財前太郎

【あらすじ】

勢力を盛り返した平家。一方、保元の乱とはうってかわって、大敗を期した源氏。赤い平家と、白い源氏の空しい戦いは、果てしなく続く……。

死地の果て

強い日差しの中には、無数の死体が転がっていた。
蠅が飛び交い、その死体をたかっている。

源氏、大敗の時……。

(うつ……うつ……)

頭から血を流し、倒れている男がいる。周りには雑虫が這い回っていた。

(ぬう……う……)

カックリと、首の力が落ちた。

源氏の大将・源義朝は、平治の乱に敗れ、東国を目指して落ち延びる途中、尾張国野間でも相伝の家人・長田忠致父子の奸計によって、湯殿で命を落とす。

もう、その時点で源氏の力は、無に近かった。

そこで大きく力をつけたのが、平家であった。

平清盛の盛大な力によって、甦った平家軍は、最強の軍事力で、源氏を圧倒した。

一体、保元の乱の時の源氏の勢いは、どこにかき消えたのか……。

(ぬう……うつ……ン?)

男は目を覚ました。そこは地獄ではない。決して天国でもない。

(何処だ……ここは……?)

男が目覚めると、そこには一人の老婆が立っていた。

「ふえふえふえ……気が付いたか…お若いの」

謎の老婆は、ますます怪しい壺を持ってきた。

死地の果て（後書き）

次回『壺の中』をお楽しみに。

壺の中（前書き）

あらすじ

怪我を負った、謎の男。それを助けた、またまた謎の老婆……。源氏か、平家か。それとも……。

壺の中

壺には、鮮やかな緑色の薬草、異種を放つ干し虫が、どんまりと入っていた。

老婆はそれを得意気に取り出し

「これをつければ、御主も治るじゃろうて…ケツケツケ…」

と言って、藪から棒に薬を、男に塗りたくった。

それが傷口にしみこむと、激痛が男を襲った。

「ぐわあああああ！ぎゃっ」

「文句言つなあ！さあ、もういつちよ！」

そう言つと、再び薬をどっさり傷口にのせた。もう、男は気を失っている。

(ぬう……た……竜也……)

襲い来る……ダンプカー。

もやっと、何かが見えるが……なんだろうか？

ああ……竜也だ……。

来た……。

「うわあっ！」

男は、かなり息を切らしていた。同時に、汗もかいている。

男の出した大声に、老婆が駆け寄ってきた。

「ほうほう……三日三晩、寝つきりで、死んだかと思つたが……ふえふえ……」

そう言っつて、奥の部屋へ入っつていっつた。
しばらくして、なにやら大きなすり鉢を待っつて来た。
中には、薬草だの、干し虫だのが入っつている。

「御主は、名をなんと申す？」

と、老婆が唐突に言っつた。

男は、つい「えっ」と言葉がっつまり、自分の名前がっつ出てこなかつた。

老婆はにやけ、男に言っつた。

「ふえっふえっふえ……怪我で名も忘れたようじゃな」

いや。違っつた。

男には、現状すら理解できていない。

(何だ……ここは……!?)

そう思っつばかりである。

「ふえっふえっふえ……思っつだせぬようなら、名を付っつけてやろっつ。
そうだな」

老婆はそう言っつと、辺りを見回しはじめた。

そして、自由に転がる椎の実に、目をとめた。

「ふふん……繆実みわさねなんて、どうだや」

男は、その名前に、激しい違和感を覚えた。

壺の中（後書き）

次回『自己忘却』をお楽しみに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2817a/>

赤い白

2010年10月15日17時03分発行